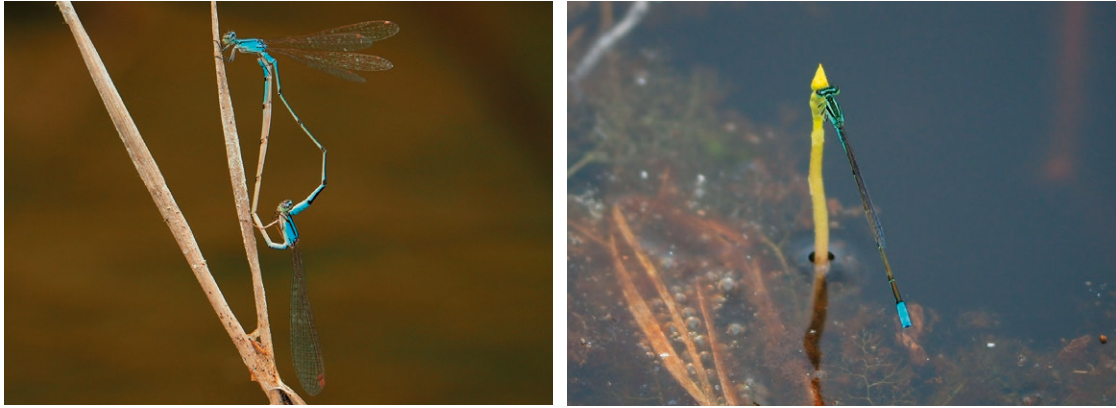


東北では初めて只見町から記録されたトンボ

(写真・文 太田祥作)

ホソミイトトンボ (学名: *Aciagrion migratum*)

【トンボ目イトトンボ科】



▲ ホソミイトトンボ 左が越冬型で、交尾の様子(上が雄・下が雌)。右が夏型の雄。
越冬型は青味が濃く、夏型は青味が薄い

福島県内では2023年現在、96種のトンボが記録されています。このうち最も新しく記録された種が、今回取り上げるホソミイトトンボです。このトンボは2022年5月に只見町で発見されたのですが、これは福島県初記録であると同時に、東北地方における初記録でもありました。

ホソミイトトンボは暖かい地域を好むイトトンボで、本州から九州にかけ広く分布しており、関東以西の太平洋側や西日本ではふつうに見られる種です。池沼や湿地など、主に流れのない水辺に生息し、水田や都市公園の池でも見ることができます。近年、これまで見られなかった北関東や、中部地方の内陸部において相次いで確認されるようになり、分布域の急速な北上が注目を集めてきました。これには温暖化の影響を指摘する向きもあります。

ホソミイトトンボは生態も独特であり、トンボの中では例外的に、成虫で越冬することが知られています。成虫には二つの型があり、一つは秋に発生して越冬し、翌春に繁殖活動を行う「越冬型」、もう一つは夏にだけ現れて繁殖活動を行う「夏型」です。これら二型が生じる要因はまだ解明されていないようです。

そんなホソミイトトンボですが、只見町では既に定着状態にあると考えられ、町内の複数箇所において、昨年に引き続き今年もまとまった数が確認されています。「只見の雪は昔より減った、夏は暑くなった」という声がしばしば聞かれますが、温暖化の影響は実感としての気候の変化のみならず、生物相の変化にも現れ始めたのかもしれませんが。

〈出典〉太田祥作(2022)東北初記録のホソミイトトンボを福島県只見町で採集. 月刊むし, 619:47-48.

只見町ブナセンターからのお知らせ

ただみ・ブナと川のミュージアムでは下記企画展を開催中です。町内で確認されている67種のトンボについて、豊富な写真を掲載したパネルや標本資料から学ぶことができます。ぜひお越しください。

企画展「只見のトンボ」

会期：2023年7月29日(土)～11月27日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー